

17.ポルト大聖堂



ポルト市の丘上にある大聖堂で、市内で最も古い建造物で、リスボン大聖堂同様に1110年頃から13世紀ころに完成したロマネスク様式建築。大聖堂ファサードは四角形の双塔を備え正面外壁面に控え壁のフィンで支えられ、地震に対して強度的にも考えられているようだった。その上部には、あとからドームが、増築されているが、少々違和感を覚える。又西側中央には、バロック様式の張り出しの玄関と銃眼模様のアーチの下にロマネスク様式特有のバラ窓があり、要塞化された教会だという印象を与えている。内部に入ると目につくのは、中央身廊部の石造り円筒形のヴォールトが掛けられていて、リスボン大聖堂とは、少し異なり重厚な感じを受けた。南側翼廊はゴシック様式の回廊とつながっていてポルトガル特有の彩色タイルのアズレージョで装飾されていた。今回のポルトガルの研修旅行の中で、ここポルトはアズレージョで装飾されている一般のビル、教会、駅も数多く当時から現在まで、この地で大切にされている装飾デザインであることが分かる。今回3都市を巡った中では、ここポルトは、ジブリ映画の“魔女の宅急便”のモデルになったとされる都市で、ドゥエロ川からこの大聖堂に掛け街並みがきれいな稜線を描き印象に残り、又訪れたいと思う街だった。